しまなみ農業だより

ミカンサビダニの防除対策

ミカンサビダニの防除対策

「ミカンサビダニ」は、古くからよく知られている、カンキツの重要害虫のひとつです。一般的には、定期防除を行っていれば、大きな被害にはつながりませんが、ここ数年、島しょ部では、大きな被害が見られたかんきつ園地が見受けられました。今回は、ミカンサビダニについて生態から防除のポイントについて解説します。

1 形態

雌成虫の体長は約0.1㎜程度と非常に小さく、肉眼では形は確認できませんが、薄黄色のくさび型をしています（写真1参照）。

2 生態

カンキツ類でのみ発生します。冬の間は、芽の中で越冬し、新芽が伸び始めると葉の上で増殖を始めます。6月中旬頃から果実に移動し、10月頃まで果実上で生活します。年間15世代を繰り返すといわれ、気温が28度で卵から成虫まで7日程度で成長し、好適条件では短期間に増殖します。

写真1　ミカンサビダニ雌成虫

3 被害

葉では、葉のゆがみや褐色に変色することがあります。果実では、早い時期に加害されると、表面がガサガサとした灰白色になり、8月以降に加害されると茶色から黒褐色になります（写真2参照）。果実の寄生密度が高くなると、薄っすらと粉をまぶしたように見え、しばらくすると果実が変色してきます。寄生密度の最盛期と被害が出始めるまでには1週間程度のずれがあり、農薬を散布しても、しばらくは被害が増えることがあります。農薬の効果がないのではなく、農薬散布後に果実の変色が始まるためです。

写真2　ミカンサビダニ被害果（レモン）

4 発生条件

増殖は気象条件の影響が大きく、高温、少雨（乾燥）で増殖が加速します。特に6月～7月と8月下旬から9月にかけての気象条件が最も影響します。また、農薬による天敵類への影響（無農薬栽培では被害が発生していない（岩城駐在 有機栽培試験）やICボルドーに含まれる石灰で増殖が促されるという説もあります。

5 防除のポイント

①前年多発したカンキツ園は要注意

前年に被害の多かった園では、越冬密度が高いので、気象条件により翌年も発生に注意する。

②6月から7月の防除が重要

葉や幼果上で寄生・増殖している時期に農薬を丁寧にしっかりと散布することで被害を抑えることができます。果実が大きくなると農薬の付着ムラ（果実の表面積の増加）も出やすくなります。8月前半に降雨が多い場合は、農薬の効果切れが心配されるので、8月下旬以降に、園内を観察して被害果が出ていないか確認し、被害が出ていたらすみやかに追加防除をしてください。

③農薬にも効果差がある（毎年発生する園では薬剤選択を変えてみる）

岩城駐在所でミカンサビダニの多発園における防除体系試験の結果から、6月初旬と7月中旬の農薬を変えることで被害果実が慣行防除区よりも減少しました（表1、図1参照）。被害をゼロにはできませんでしたが、かなり抑えることができました。

6 最後に

最近は、ゲリラ豪雨や高温・少雨など予想ができない異常気象に遭遇するようになり、病害虫の発生の変化も考えられます。園地を観察して異常が認められたら指導機関にご相談ください。

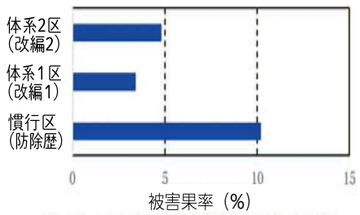


図1　ミカンサビダニの防除体系別の被害果率（2020年）

表1）　ミカンサビダニの防除体系（2020年岩城駐在）

散布日	慣行区（防除歴）	体系１区（改編１）	体系２区（改編２）
6/2	アプロード エースFL	アプロード エースFL	モレスタン水和剤
7/1	コテツFL	コテツFL	コテツFL
7/16	ハチハチFL	アグリメック	ハチハチFL
8/13	ダブルファエースFL	ダニゲッターFL	ダブルファエースFL
9/15	アグリメック	ハチハチFL	アグリメック

注）　表中の農薬名のFLはフロアブルの略字。赤字が変更農薬。

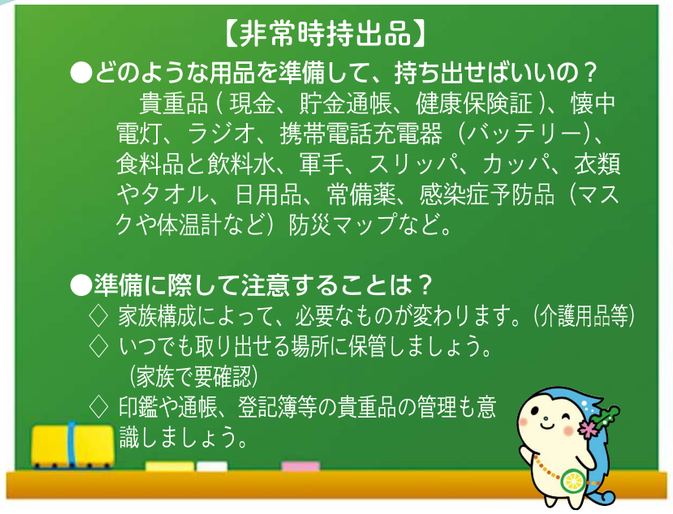
火災・救急・救助は 119 消防だより

令和３年度全国統一防火標語
「おうち時間　家族で点検　火の始末」

【梅雨や台風に備えて下さい】

災害に対する備えはできていますか。出水期が始まり、梅雨や台風等の影響による災害のリスクが高くなっています。災害時に安全な避難をするためにも、日頃からの備えが重要です。非常持出品の確認や、防災マップで避難場所の確認をしておきましょう。

【問い合わせ先】消防本部　消防防災課　☎77-4118



コロナ禍の熱中症対策について

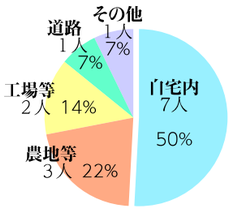
全国的に7月から9月にかけて、熱中症になりやすい季節となります。上島町は海に囲まれており、気温の上がりやすい日中は海から陸へ風が吹き、風通しが良く熱がこもりにくい特徴がありますが、毎年、熱中症による救急搬送事例が発生しています。昨年に引き続き、コロナ禍での熱中症対策が必要となりますので十分注意してください。

町内における熱中症の発生状況

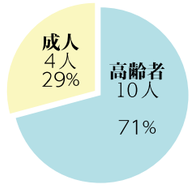
上島町では、令和2年中に14人が熱中症で救急搬送されています。年齢別にみると、65歳以上の高齢者が10人で、全体の約7割を占めており、発生場所別にみると、約半数の7人が自宅内で熱中症になっています。室内での熱中症予防のために、エアコンを有効に活用してください。

※環境省では冷房時の室温の目安を28℃としていますが体調等を考慮しながら、冷やしすぎない室温管理を取り組む目安です。
「室温28℃」は冷房の設定温度ではありません。設定温度を28℃にしても室温が下がらない場合は、設定温度を下げるようにして下さい。

令和2年熱中症発生状況



発生場所別熱中症搬送人員



年齢区分別熱中症搬送人員

令和３年５月出動件数

地区	弓削	生名	岩城	魚島	その他	合計	R3累計
火災	0	0	0	0	0	0	1
救急	18	11	5	1	0	35	171

（令和３年５月31日現在）

上島町消防署　☎77-4118

マスクの着用について

マスクの着用により、心拍数や呼吸数、体感温度が上昇するなど、身体に負担がかかることがあります。高温多湿といった環境下でのマスク着用は熱中症のリスクが高くなるおそれがあるので、屋外で周囲の人と十分な距離（少なくとも2メートル以上）が確保できる場合には、マスクを一時的にはずして休憩することも必要です。

また、マスクを着用する場合には、強い負荷の作業や運動は避け、のどが渇いていなくてもこまめに水分補給を心がけましょう。